（第三種郵便物認可 大正八年三月七日） 昭和九年九月廿二日 THE IWAKIJIHO （土曜日） （第六千六百六十五號） （一）

廿一日 日刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人 印刷人 岡田弘成
福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所 加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十三
發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

稀有の大颱風襲來か
恐怖の磐城各濱
四倉港に避難の漁船轉覆
幸いに乘組員全部救助さる
海岸線一帶に非常警戒中

颱風來る…●二百十日以來連日梅雨同樣晴欝な曇天、降雨の石城地方は昨二十日午後二時來突如暗憺たる荒れ模樣となり小名濱測候所は「暴風の虞れあり」との警報を發したので今二十一日解禁の秋刀魚漁に出動中の各濱漁船は急遽最寄の女川、石卷、原釜等各地港に寄港避難しその他各地から本縣沖合に出漁中の漁船は小名、江名、中の作、四倉等に避難してゐるが、今二十一日朝來時化模樣次第に濃く刻々海上一帶危險加はるので小名江名、四倉、豊間等各濱消防組、青年團、漁業組合等總出動で警戒中突如午前九時小山の如き大巨浪襲來折柄四倉港内に避難中の久の濱字江の網松葉屋事佐治平所有漁船は遂に轉覆乘組員は全部海岸に辛じて泳ぎ付いたので消防組、青年團等に救助一名の死傷もなかつた。尚海上は刻々險惡化して居り全海岸線に亘り警戒中である。

颱風の本郡通過
今夕四時から八時前後か
刻々勢力を増して北上中

今二十一日本郡一帶に大颱風の脅威を豫知する暴風雨警報に接した各關係方部では目下全力を擧げて警戒中であるが、此の颱風は沖繩の東方約百キロに達し風速二十八米の強風で中心示度七百二十五ミリ半徑三百キロに及ぶ大暴風雨と化し此のまゝ進行すれば關東一圓及本郡當りは此の颱風圏内に在り、方向轉更のない限り關東一帶の何處かに激甚な被害が豫測される。現在非常な速度を以つて北上中で萬一當地方を通過するとすれば午後四時から八時前後と思はれて居り、此の時刻は最も警戒の必要あり。從來の颱風と比して非常な猛威を有してゐるだけにその被害は激甚なものと見られてゐる。

▲平町土木委員會

平町では二十六日午後一時から土木委員會を招集し特賣地の價格決定、高麗橋渡橋式の準備その他を協議。

小名濱港内にあはや流血の慘
幸徳丸、大平丸兩船亂闘
仲裁の組合長負傷

三重縣度會郡船津村高井初太郎所有船大平丸（五十噸）が二十日小名濱港に寄港碇泊中折柄午後一時頃の豊漁で滿載歸港した同町水野政次郎氏所有漁船幸徳丸が大平丸の傍らを通過せんとした際舷に觸れたのに幸徳丸側が挨拶をしなかつたのが面白くないと大平丸乘組の船長小谷賢造（四五）以下の漁夫連がいきり立ち幸徳丸漁夫との間に猛烈な怒罵の應酬を始め遂に大平丸小谷船長は漁夫七名と共に棍棒を揮つて幸徳丸に押かけ亂入し折柄同船に乘り合はせてゐた同町漁業組合長水野政次郎（五二）氏が此れを制止仲裁せんとしたのを躍りかゝつて暴行頭部に全治二週間の傷害を加はへたので幸徳丸乘組漁夫川村次吉（四七）鈴木七郎（一八）が水野組合長をかばはんとするや亂暴な小谷船長等は兩漁夫を叩き付け重傷を負はせたので同港内に繫留中の漁船に乘船漁夫は遂に幸徳丸に應援大平丸との間にあはや海上血の雨を降らさんとしたが負傷の水野組合長以下小名濱側の漁夫を必死となつて制止し急報により馳せ付けた菊地警部補以下警官隊が引分けた。急報により平署から川島司法主任以下現場に急行幸徳丸の負傷者と大平丸の加害者以下關係人を取調中。

勿來町民
体育大會

勿來町の町民體育大會は三十日午前九時から同町小學校グラウンドに於いて擧行する事に決定した。競技種目は
百米、二百米、四百米、八百米、千五百米、走巾跳、走高跳、三段跳
武道 柔劍道、相撲 以上

滿洲計理官
吉田君赴任
十月二日出發

滿洲國計理官試驗應募者中本縣唯一の合格者平町役場書記吉田松雄君は二十日同國財務部から正式發令あつた旨入電あつたが愈々來る十月二日午後一時二分平驛發列車で赴任する。

白刄を揮つて
狂人路上に暴れる
兵役甲種合格から發狂
今朝湯本町の椿事

湯本町字天王崎四九六彦作長男比佐喜一郎（二一）は今二十一日午前九時頃突如自宅奥座敷にあつた刄渡り一尺八寸の日本刀を拔き放つて暴れ出し實母ヒロ（四〇）に斬りかゝつたのでヒロは悲鳴をあげて戸外に遁れだしたが、喜一郎は逃げる母を追つて拔身を揮り翳して路上に飛出し誰れ彼れを問はず路上の通行人に斬り付けんとして暴れ廻り手が付けられないので大騷となり平署から渡部温部長、高松四段、遠藤三段等新撰組の猛者が現場に急行辛じて同人を取り押さへ目下同家には監禁中であるが、喜一郎は昨年東京工手學校を卒業後某官廳に奉職してゐたが去六月中突然父彦作が死亡したので實家に呼戻され家事の後仕末等で惱んでゐた折柄徴兵檢査で甲種合格となりさらぬだに母一人子一人で母ヒロの身を案じた余り遂に小心な喜一郎は極度の神經衰弱から精神に異狀を呈し附近の人々が警戒中のものであつた。尚喜一郎の症狀が狂暴性であるため水戸腦病院に入院せしむる事になり平署で手續き中である。

長谷川氏の
頌德紀念碑
木村守江氏奔走

四倉町醫師木村守江氏は故恩師四倉町本町長谷川房松氏の頌德紀念碑を建立すべく二十餘名の贊成者を得て同町原田海嶽寺に建造中であつたが二十四日午後一時除幕式を兼ね慰靈祭を擧行する。

物見ヶ岡
稻荷例祭

平町物見ヶ岡神社の例祭は二十二日宵祭二十三日本祭の二日に亘り執行される。

交通安全座談會
警察、役場、土木監督所
發起で今日平署に開催
事故防止策を協議

二十六日から三日間に亘り執行される全國交通安全デーを前にして平警察署では今二十一日午前九時から横山平署長、青沼平町長、小林土木監督所長三氏主催で交通安全に關す座談會を招集した。參會者は後藤平驛長、正木磐女、篠山、津田、赤津三小學校長、平消防組關内副組頭酒井、岡田部長、平青年團鈴木副團長、佐々木、前澤兩請負業者代表、平自動車協會三井、鈴木、加藤幹部、町内行政區長その他町内各種公私組合長、團体主腦者等七十餘名出席横山署長開辭に次いで座談會に移り事故防止に關する各種の協議後正午散會したが、尚平署では前記三日間の交通安全デーには自動車協會平支部と協力して左の如き宣傳ビラを撒布交通思想の普及宣傳に努むる筈である。

▲は必らず左側▲するな自轉車の二人乘り▲諸車は夜燈火を用ふる事▲道路で遊戲又は幼兒を附添ひなくして遊ばせるな▲濫りに道路の使用又は物を置かぬ事▲一番危險は曲角
以上

▲御詠歌大會

大浦村上仁井田最勝院では二十七日御詠歌大會を催ほすが參會者三百五十餘名に達すると。

▲一二三會繪畫展

平町第二小學校一二三會同人主催の繪畫展覽會は二十三、四兩日マルトモホールで開催する。

かまぼこ製造
折詰仕出し
吉原揚、さつま揚
平　二

藤市
電話二〇五番

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
諸橋久太郎
電話九九番

質物一般
営業時間　午後九時迄
三井質店
平町四丁目川岸通り
電話六〇六番

東神火災保険株式會社
東京動産火災保険株式會社
横濱生命保険株式會社
河田鐵工場
河田梅吉
營業所　福島縣平町神宮町二
電話三二九番　二九五番
本社　東京市日本橋通り三丁目
仙臺支部　仙臺市大町三丁目
磐城代理店

子供婦人服…開店御披露
開店　二十日より三十日まで　**粗品…進呈**
今迄で東京にてデパート納品製造に従事致しました……
斷然……お安く賣ります
ドーゾ御引立下さいませ

流行の尖端を誇る
一粒選りの新柄と新型を
注文裁縫
生地裁賣……勉強致します

男學生　小倉服長ズボン　一・二〇より
全　ラシヤ製　三・二〇より
女子通學服セーラー　二・二〇より
新柄文化コート　一・二〇より
小兒實用セター　五五より
全　半ズボン　三五より
附屬品……各種
素晴しく……安い
ハヤシ子供婦人洋服店へ
平町三丁目角（マルトモ書店向）

建築材料の御用命は
今一番勉強の當店へ
銘木一建具材料
建築材料式
余織田材木商店
平町紺屋町
電話四六〇番
かや優良材、碁、將棋盤（新品格安急譲り度し）

貸切の御用命は
ぜひ……三井自動車部へ!!!
電話六八五番……へ
◎乘合は好間、合戸、澤渡方面行

許可省藏大
磐城無線電話
東京電話一区八番
來共存共
誠意實踐
斷然群ヲ拔ク

コンポーク塩豚
平町田町
三三三屋
電話三三三番

二葉印刷所
平町仲町・電話一九三番

平町の株式店
公社債・株式現物賣買
治角株式店
平町本町三丁目七十七銀行隣大谷時計店側
株式日報　營業案内　御報進呈　御報參上
電話七三番

東京株式取引所　短期實物取引員
治角治商店
電話茅場66〔二七一　二七三　二七五　三四五六
代表〔二七二　二七四　三四五五　八二四　長六六五
東京市日本橋區兜町一ノ四電略（カヌハ）カクヂ

氷は魚清!!
△△△△△△△
電話四六七番へ
平二丁目警察署通り
本店　魚清氷卸部
江名町築港内
支店　江名販賣所
電話六九番

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士　鈴木正男
（入院のお需めに應ず　自炊の便あり）
平町田町〔電話五八番〕
藤田女學校前

内科小兒科
花柳病科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平長五〇七